

第9回 NRC全国キャラクター調査

【ご当地キャラクター】

2022年12月調査結果



株式会社日本リサーチセンター

東京都墨田区江東橋4-26-5 URL: <https://www.nrc.co.jp/>

日本ではマンガやアニメなどに登場するキャラクター人気が高く、キャラクターを商品化したビジネスも盛況ですが、キャラクター市場の実態としてどのようなキャラクターが認知され、好感をもたれているでしょうか。

上記を把握するため、弊社は2014年から毎年、自主調査企画として「NRC全国キャラクター調査」を実施してきました。調査対象は、全国の15～79才男女1200人です。

第9回となる今回は、「ご当地キャラクター」30種と「イベントマスコット」2種の合計32キャラクター（注1）の認知と好感について、2022年12月に、訪問留置という手法（注2）で調査を実施しました。

（注1）キャラクターは名前のみで、画像提示は行っておりません。

（注2）本調査は、**NOS（日本リサーチセンターオムニバス調査）**を利用しています。

アンケート登録パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは50年以上にわたって、「調査員を使った訪問留置」、「パネルモニターではない毎回抽出方式」で調査を継続しております。

日本全国の15～79才男女個人1,200人について、地域・都市規模と性年代を日本の人口構成に合うように回収していますので、全体比率は、地域や年代等の偏りがない結果としてご覧になることができます。

全体結果

提示したご当地キャラクター30種、イベントマスコット2種の認知は、

▼「ふなっしー」と「くまモン」は、約9割と認知率が高く、次いで、「ひこにゃん」と「せんとくん」は約7割でした。

▼この他に4割以上の認知は、「ねば〜る君」(54%)、「ぐんまちゃん」(42%)、「チーバくん」(38%)のみです。

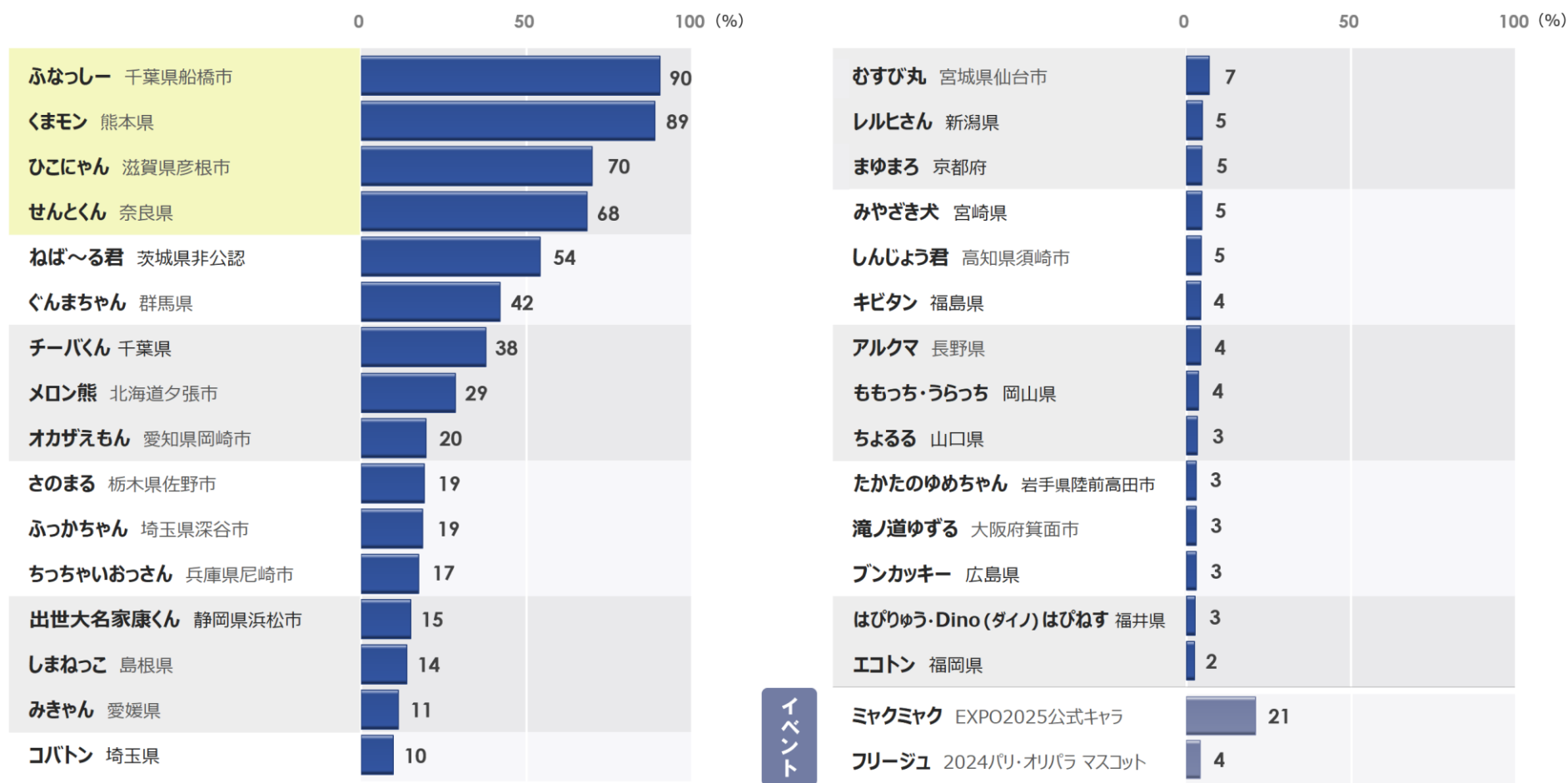
▼大阪・関西万博 EXPO2025 公式キャラクターの「ミyakミyak」は21%、パリ 2024オリンピック・パラリンピック マスコットの「フリーズ」は4%でした。

認知

(n=1,200)

※多いもの順に並べ替え

次の「ご当地キャラクター」や「イベントマスコット」のうち、あなたをご存知のものはどれですか。知っているものをすべてお知らせください。(〇はいくつでも)



提示したご当地キャラクター30種、イベントマスコット2種の好感は、

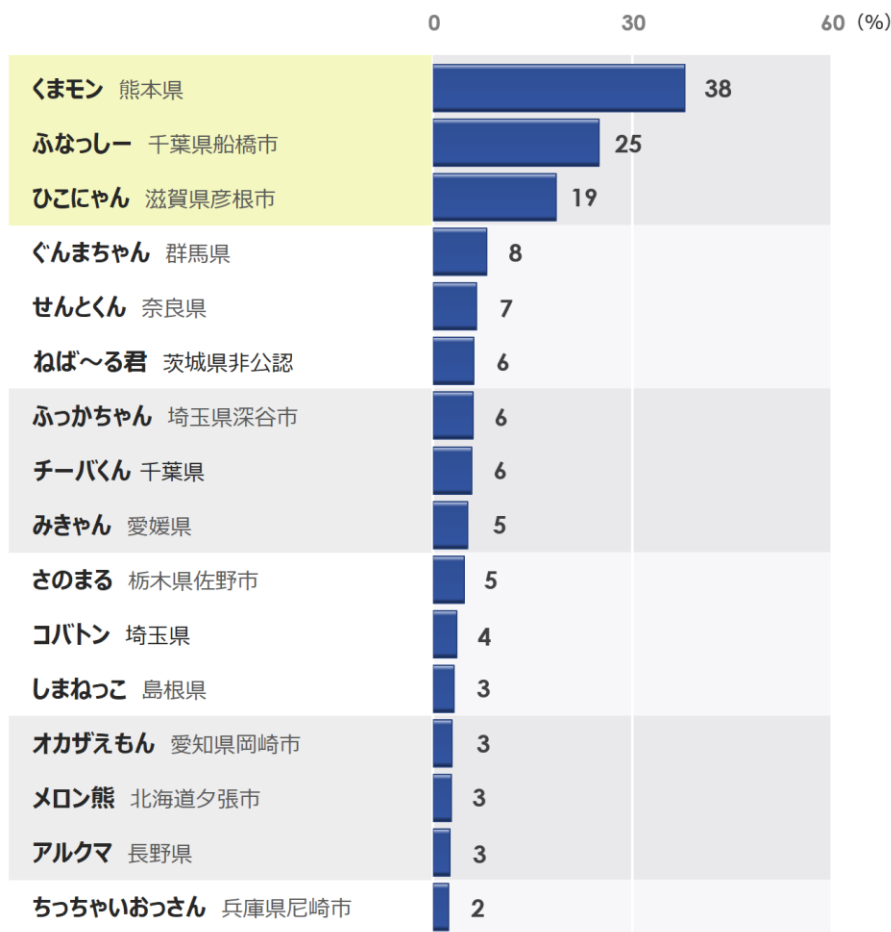
- ▼「くまモン」は38%と最も高い結果となりました。続いて、「ふなっしー」(25%)、「ひこにゃん」(19%)が高く、1割以上の好感率はこの3キャラクターのみです。
- ▼1位の「くまモン」と2位の「ふなっしー」の差は13ポイント、「ふなっしー」と「ひこにゃん」では6ポイント差と、上位3キャラクター間でも好感度の開きがみられました。
- ▼「ミyakミyak」は3%、「フリーズ」は1%でした。

好感

(n=1,200)

※多いもの順に並べ替え

そのうち、あなたがお好きのものはどれですか。(〇はいくつでも)



イベント

認知度の時系列推移をみると、

▼「くまモン」は、2014年から2021年まで一貫して9割以上でしたが、2022年は89%でした。

▼「ふなっしー」は、2014年から2022年まで9割前後の推移です。

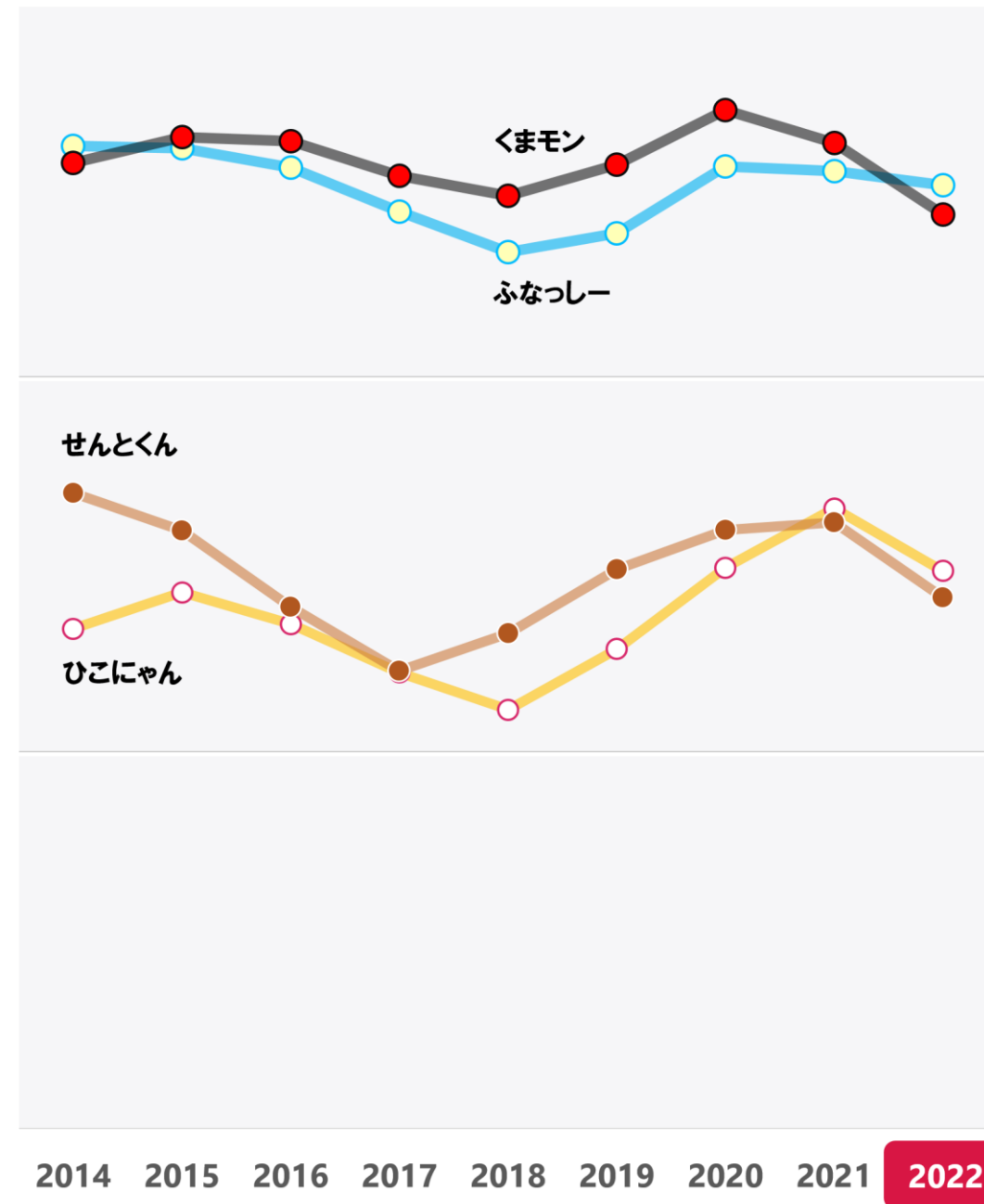
▼「せんとかん」は、2018年から2021年まで増加傾向でしたが、2022年は減少しました。同じく「ひこにゃん」も、2019年から増加していましたが、2022年は減少しています。

認知 ① 上位4キャラクター

(n=1,200) 注：「-」は聴取なしを示す

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
関東	ふなっしー	92	92	91	89	87	88	91	91	90
	ひこにゃん	67	69	67	64	62	66	70	73	70
近畿	せんとかん	74	72	68	64	66	70	72	72	68
	くまモン	92	93	93	91	90	91	94	93	89

(%)
100



40

2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022

▼その他に、時系列比較ができるキャラクターの認知度は以下の通りです。

▼「ぐんまちゃん」は、2014年 20%→2015年 37%と、1年間で17ポイント上昇した後、2019年までは約35%と安定し、2020年以降は40%以上を保っています。

▼2014年に7%だった「ふっかちゃん」は、2021年まで緩やかに増加していましたが、2022年は19%でした。

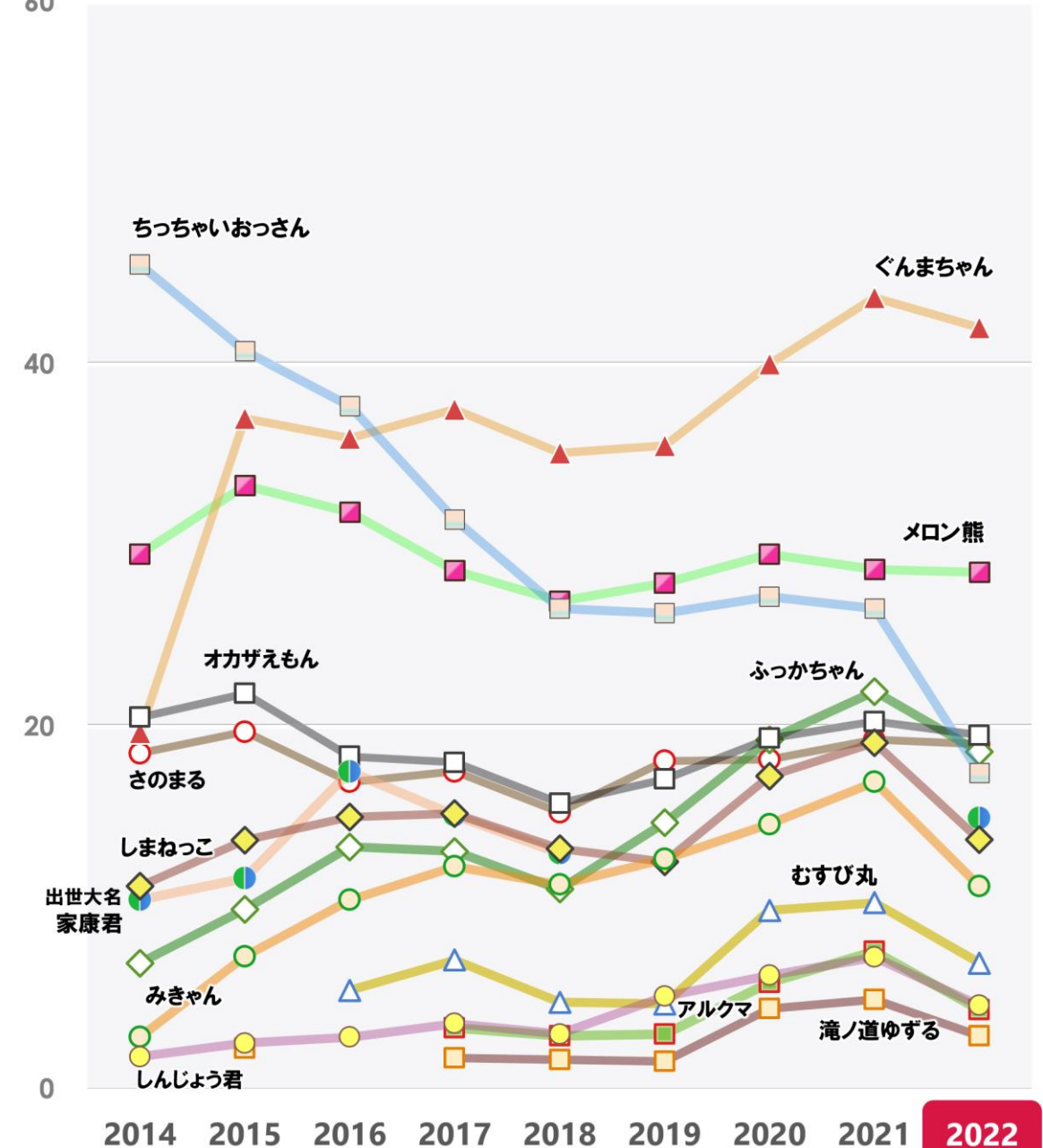
認知 ② 5位以下キャラクター

(n=1,200) 注:「-」は聴取なしを示す

(%)

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
北海道・東北	メロン熊	30	33	32	29	27	28	30	29	29
	むすび丸	-	-	5	7	5	5	10	10	7
関東	さのまる	19	20	17	18	15	18	18	19	19
	ぐんまちゃん	20	37	36	38	35	36	40	44	42
	ふっかちゃん	7	10	13	13	11	15	19	22	19
中部	アルクマ	-	-	-	3	3	3	6	8	4
	オカザえもん	21	22	18	18	16	17	19	20	20
	出世大名 家康くん	10	12	18	15	13	-	-	-	15
近畿	滝ノ道ゆずる	-	2	-	2	2	2	4	5	3
	ちっちゃいおっさん	46	41	38	31	27	26	27	27	17
中国・四国	しまねっこ	11	14	15	15	13	13	17	19	14
	みきちゃん	3	7	10	12	11	13	15	17	11
	しんじょう君	2	3	3	4	3	5	6	7	5

(%)
60



好感度の時系列推移をみると、

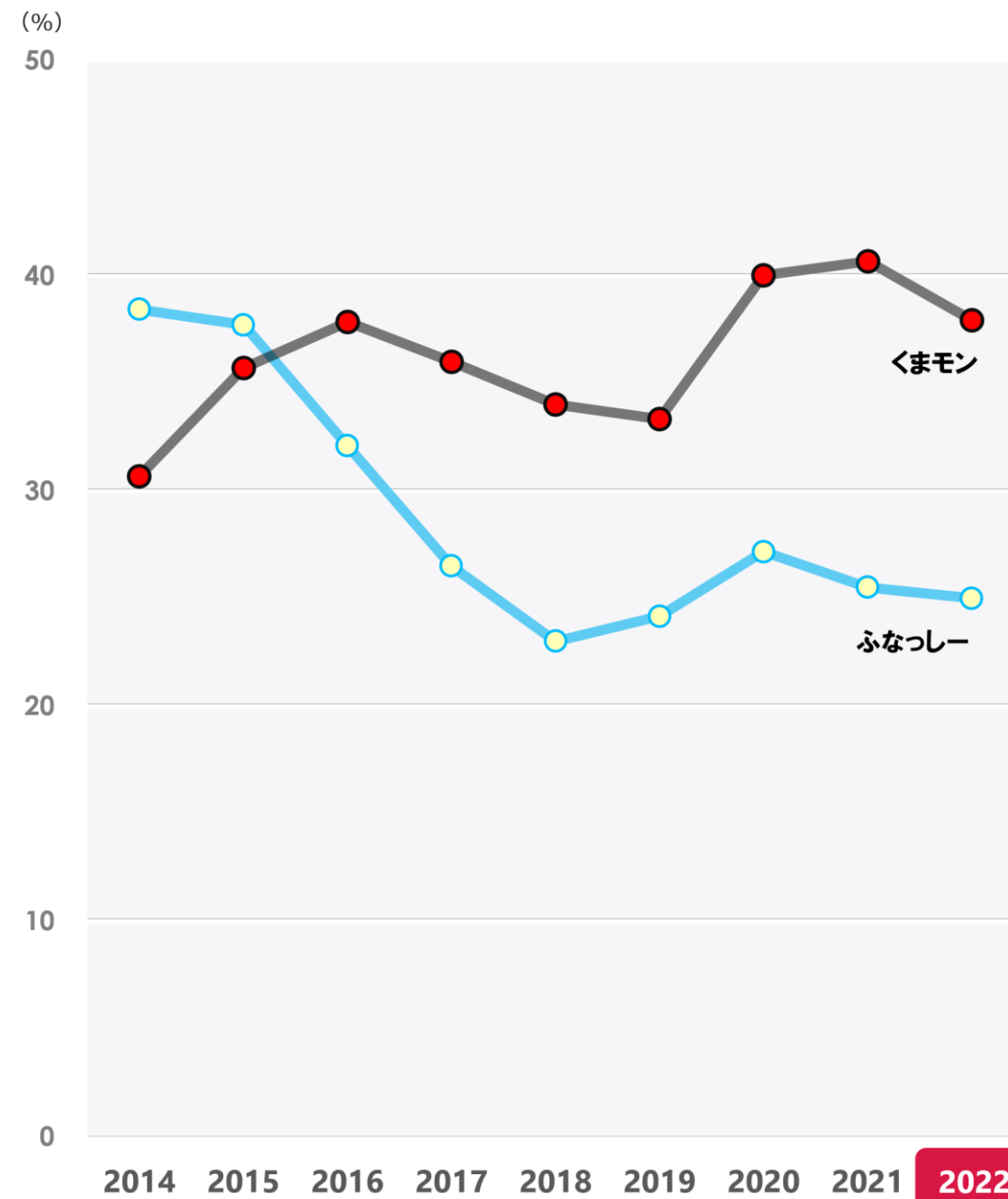
▼「ふなっしー」は、2018年までは減少傾向でしたが、2022年は25%と、ここ数年は25%前後で安定しています。

▼「くまもん」も、2016年→2019年は減少傾向でしたが、2020年以降は4割前後です。

好感 ① 上位2キャラクター

(n=1,200) 注：「-」は聴取なしを示す

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
関東	ふなっしー	38	38	32	27	23	24	27	26	25
九州	くまモン	31	36	38	36	34	33	40	41	38



▼「ひこにゃん」は、1割台で推移していますが、2020年から増加傾向で、2022年は19%と2割弱でした。

▼「ぐんまちゃん」は、2021年に10%になりましたが、2022年は8%とまた1割を切りました。

好感 ② 3位以下キャラクター

(n=1,200) 注:「-」は聴取なしを示す

(%)

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
北海道・東北	メロン熊	3	3	4	3	2	3	5	5	3
	むすび丸	-	-	2	2	1	1	3	5	2
関東	さのまる	3	4	4	3	3	3	4	6	5
	ぐんまちゃん	3	8	7	7	6	5	7	10	8
	ふっかちゃん	2	2	3	3	2	2	5	6	6
中部	アルクマ	-	-	-	1	1	1	3	5	3
	オカザえもん	2	2	2	3	2	1	3	4	3
	出世大名家康くん	1	1	3	1	1	-	-	-	2
近畿	ひこにゃん	12	14	15	14	13	13	16	18	19
	滝ノ道ゆずる	-	1	-	1	1	1	3	3	2
	ちっちゃいおっさん	7	7	6	4	3	4	4	3	2
中国・四国・九州	せんとかん	5	6	5	5	4	5	6	6	7
	しまねっこ	1	2	4	3	3	2	4	5	3
	みきちゃん	1	2	3	3	3	3	6	6	5
	しんじょう君	0	1	1	1	1	1	3	4	2

(%)

50

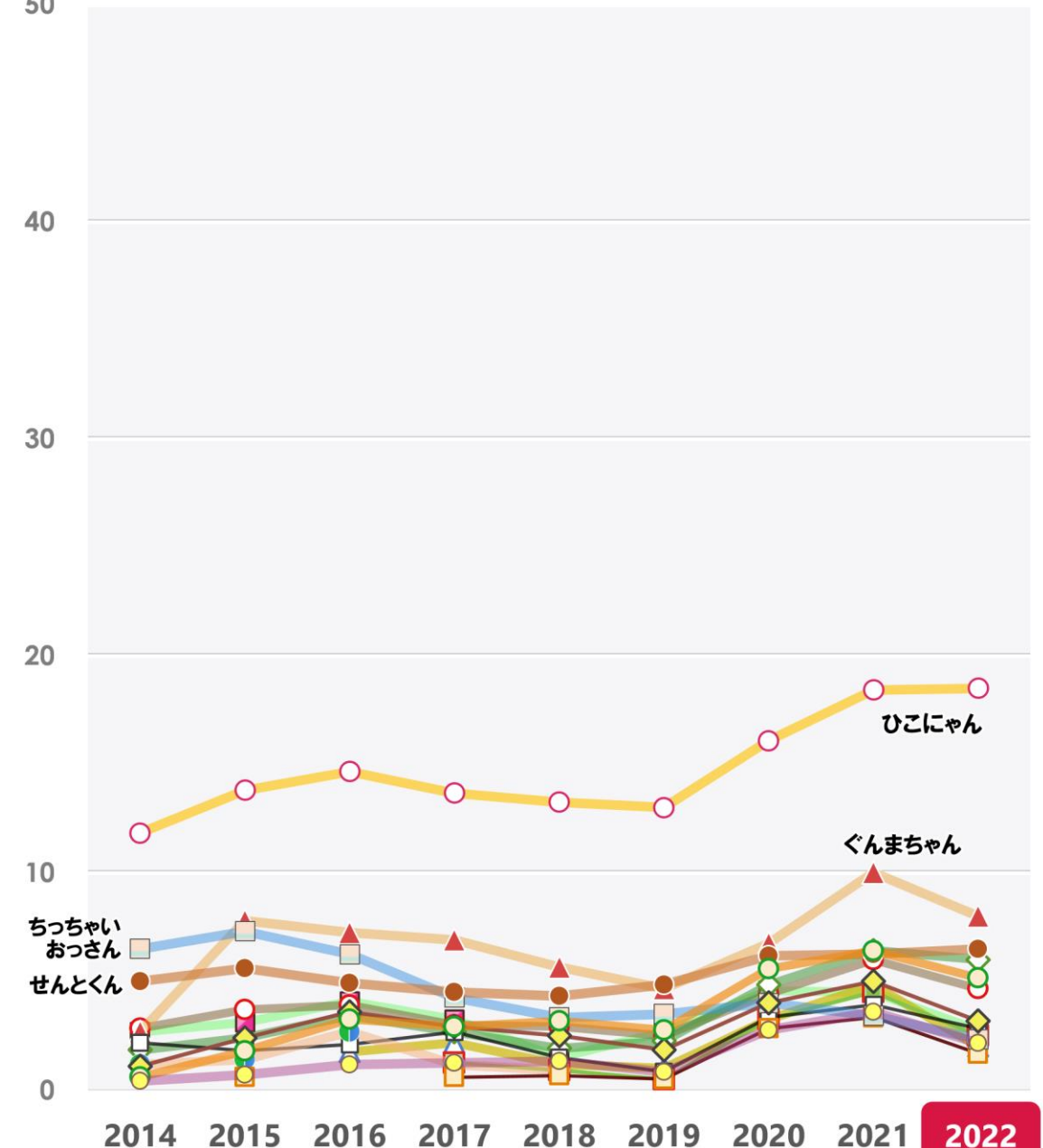
40

30

20

10

0



2022年 エリア別と男女年代別

エリア別に認知度の違いをみると、

▼ご当地キャラクターの名前の由来通り、地元エリアで認知の高さが目立つキャラクターがほとんどです。

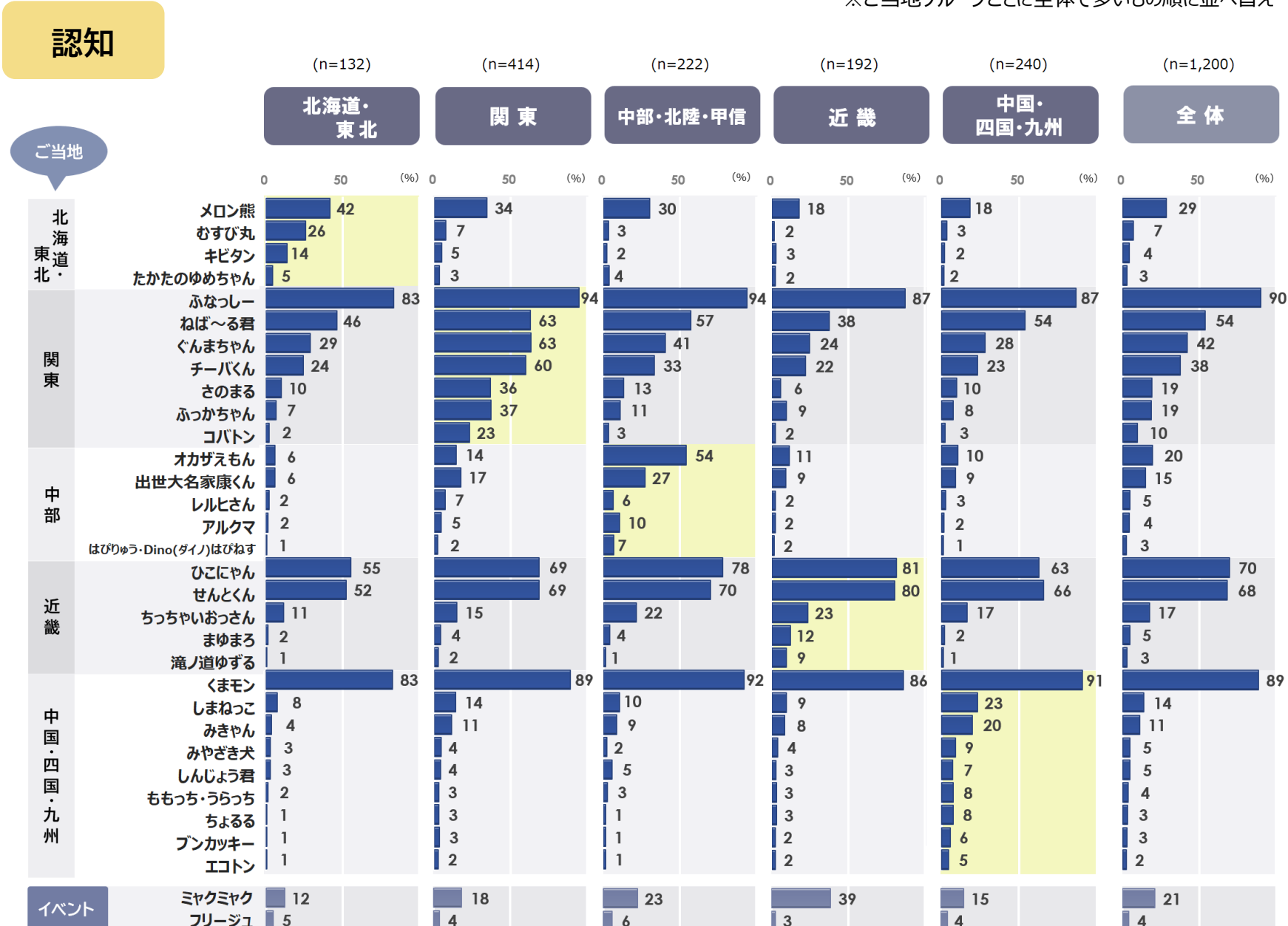
▼「ひこにゃん」と「せんとかん」は、近畿では81%、80%と非常によく知られています。

▼それぞれのご当地エリアでは、「メロン熊」(42%)、「ねば〜る君」と「ぐんまちゃん」(63%)、「チーバくん」(60%)、「オカザえもん」(54%)も、4割以上と高い認知率でした。

▼「くまモン」と「ふなっしー」は別格で、いずれのエリアでも8割以上と高く、ご当地エリアを超えた全国レベルの有名キャラクターと言えます。

▼大阪・関西万博 EXPO2025の公式キャラクターである「ミyakミyak」も、全体では21%ですが、開催地の近畿エリアでは39%と高くなり、注目されていることがうかがえます。

※ご当地グループごとに全体で多いもの順に並べ替え



男性・年代別に認知度の違いをみると、

▼「くまモン」は78～92%、「ふなっしー」は80～91%と、男性の全年代層で高い認知率でした。

▼「ひこにゃん」と「せんとかん」も、各年代を通して5～7割前後と、他のキャラクターと比べて高水準です（ただし、「ひこにゃん」は29才以下で、「せんとかん」は70代で、認知率が低い傾向）。

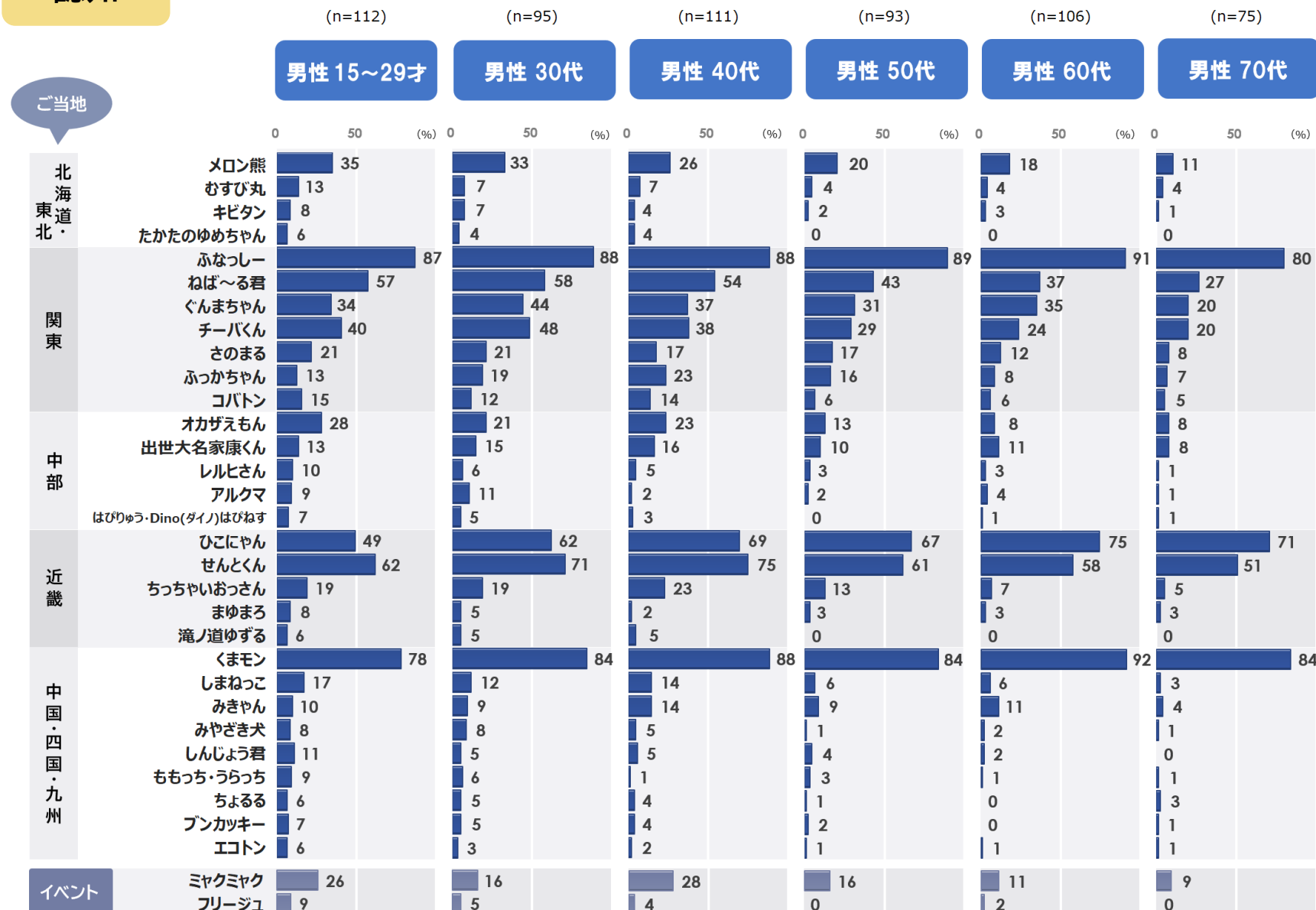
▼「ぐんまちゃん」は、30代で4割超と高いです。

▼40代以下では、「ねば～る君」は5割以上、「オカザえもん」は2割以上、「ちっちゃいおっさん」は2割前後と高めです。
また30代以下では、「メロン熊」は3割以上、「チーバくん」は4割以上と、高齢層に比べて高くなっています。

▼「ミyakミyak」は、男性では40代と29才以下では2割台でした。

※ご当地グループごとに全体で多いもの順に並べ替え

認知



女性・年代別に認知度の違いをみると、

▼男性と同じく、女性でも「くまモン」と「ふなっしー」は、全年代層で85%以上と高い認知率でした。

▼「ひこにゃん」と「せんとかん」も各年代を通して、6～8割前後と、他のキャラクターと比べて高水準です（ただし、「ひこにゃん」は29才以下で、「せんとかん」は70代で認知率が低い傾向）。

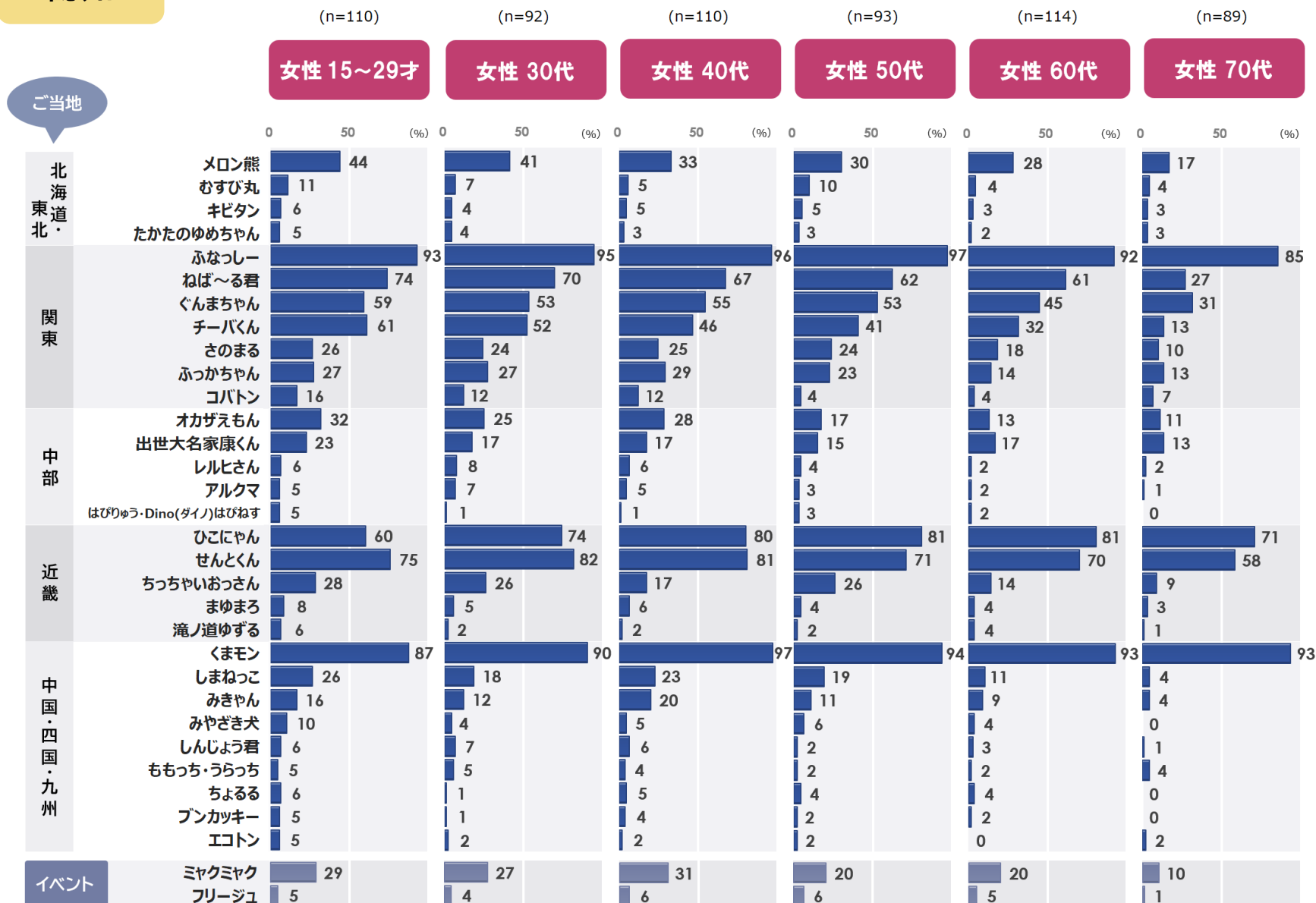
▼「ねば～る君」は、60代以下の認知が6割以上と高いですが、70代では27%と低くなります。「ぐんまちゃん」も、50代以下は5割以上ですが、70代は31%と低め。

▼30代以下では「メロン熊」は4割以上、「チーバくん」は5割以上となっています。また、29才以下では「オカザえもん」は3割以上です。

▼「ミyakミyak」は、女性の40代で31%と最も高い認知でした。

認知

※ご当地グループごとに全体で多いもの順に並べ替え



エリア別に好感度の違いをみると、

▼「くまモン」は、全てのエリアで好感度1位（30～44%）です。

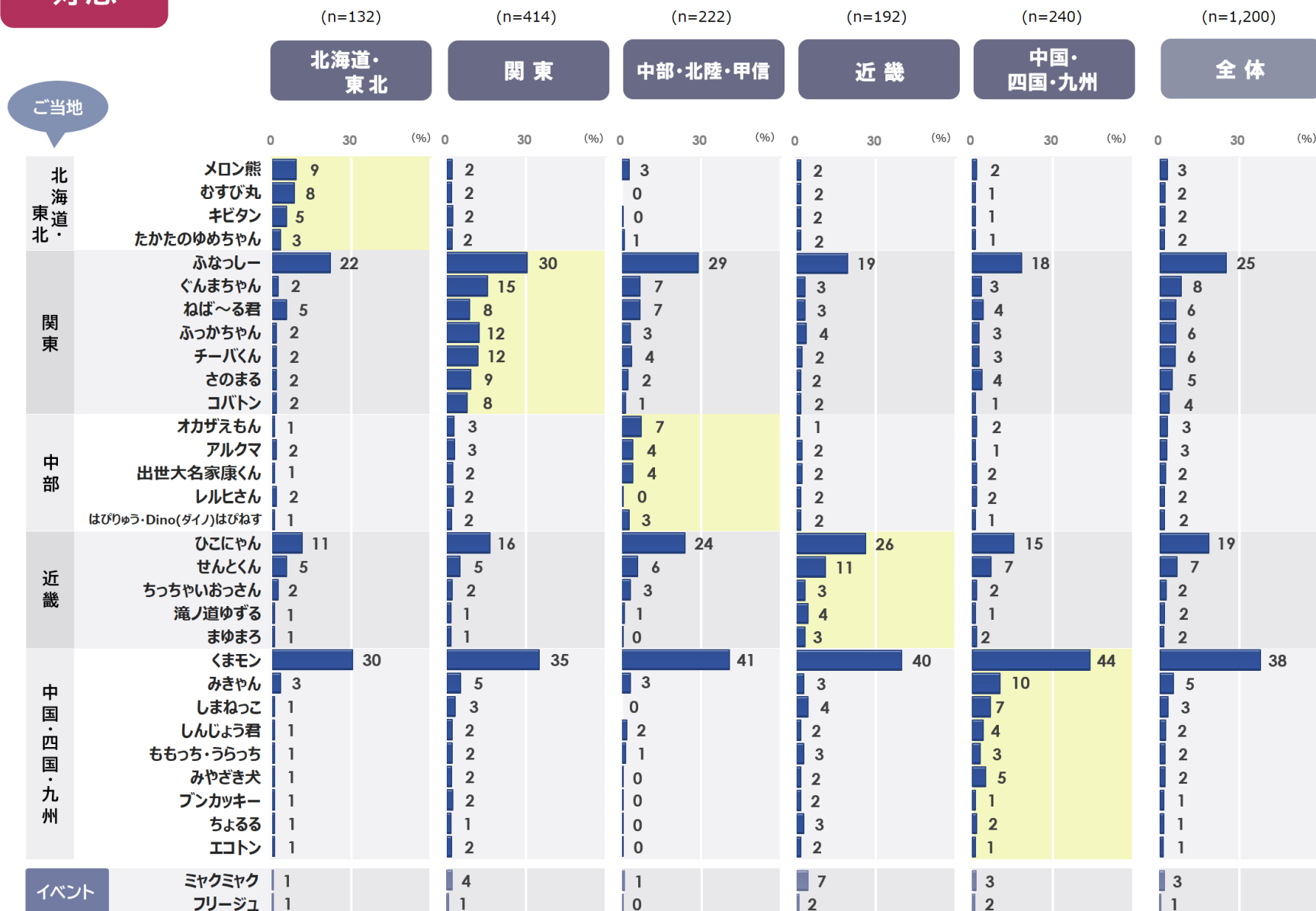
特に、ご当地にあたる中国・四国・九州では、44%と最も高い認知率です。

▼ご当地エリアで好感度が最も高くなっているキャラクターが多いですが、ご当地で好感度が2割以上だったのは「ふなっしー」（30%）、「ひこにゃん」は（26%）、「くまモン」（44%）の3キャラクターのみでした。

▼「ミyakミyak」は、開催地の近畿エリアでも好感度は7%と1割未満でした。

好感

※ご当地グループごとに全体で多いもの順に並べ替え



男性・年代別に好感度の違いをみると、

▼「くまモン」は、男性のどの年代でも好感度が1位ですが、最も高いのは、70代（45%）でした。

▼「ふなっしー」はどの年代でも25%前後となっています。

▼「ひこにゃん」は、60代以上で2割以上と高齢層の好感度が高いです。

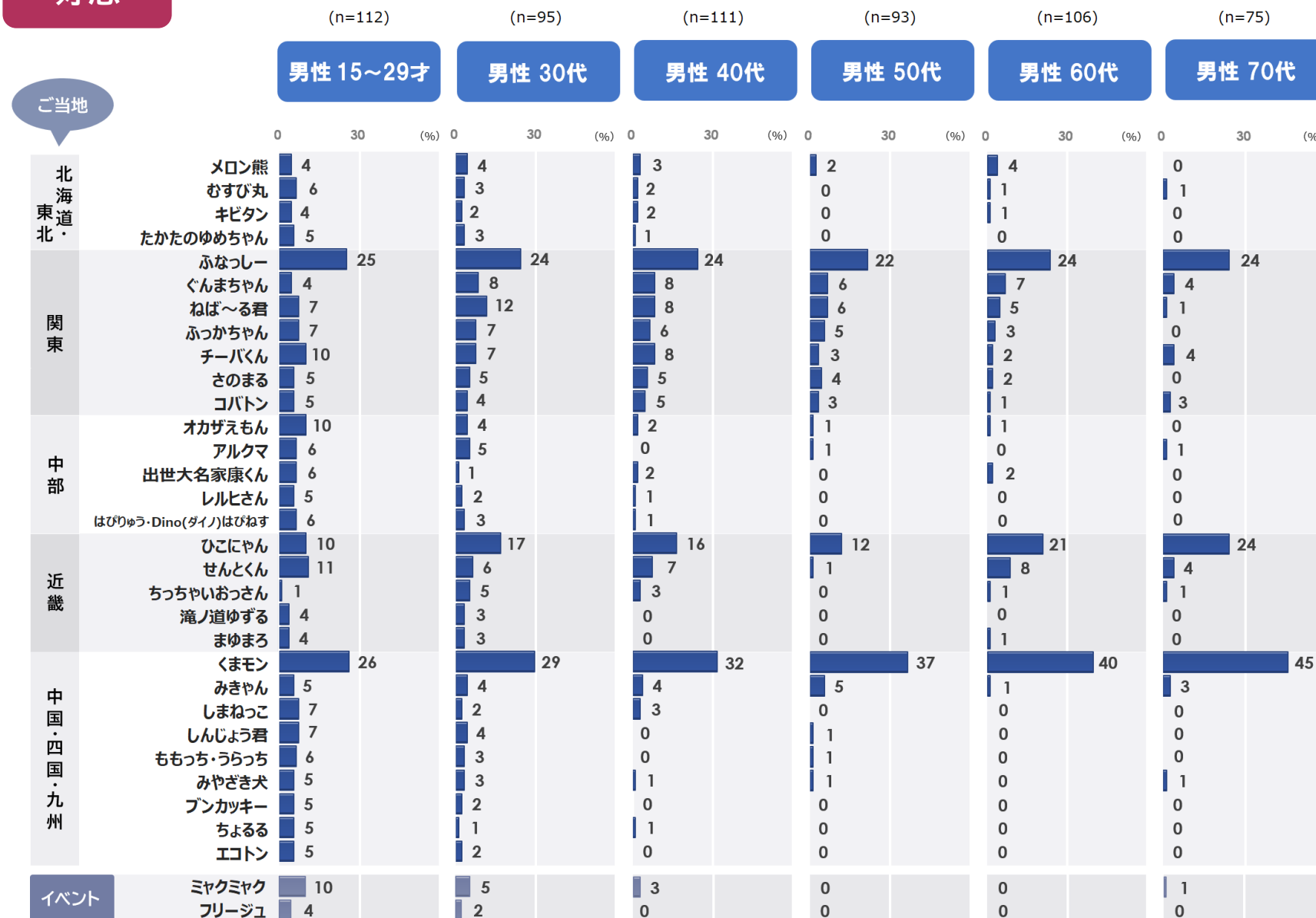
▼「せんとかん」は、29才以下の若い層では1割強。

▼「ねば～る君」は30代で、「チーバくん」と「オカザえもん」は、29才以下では1割でした。

▼「ミyakミyak」は、若い人の方が好感度が高い傾向ですが、29才以下で1割程度です。

好感

※ご当地グループごとに全体で多いもの順に並べ替え



女性・年代別に好感度の違いをみると、

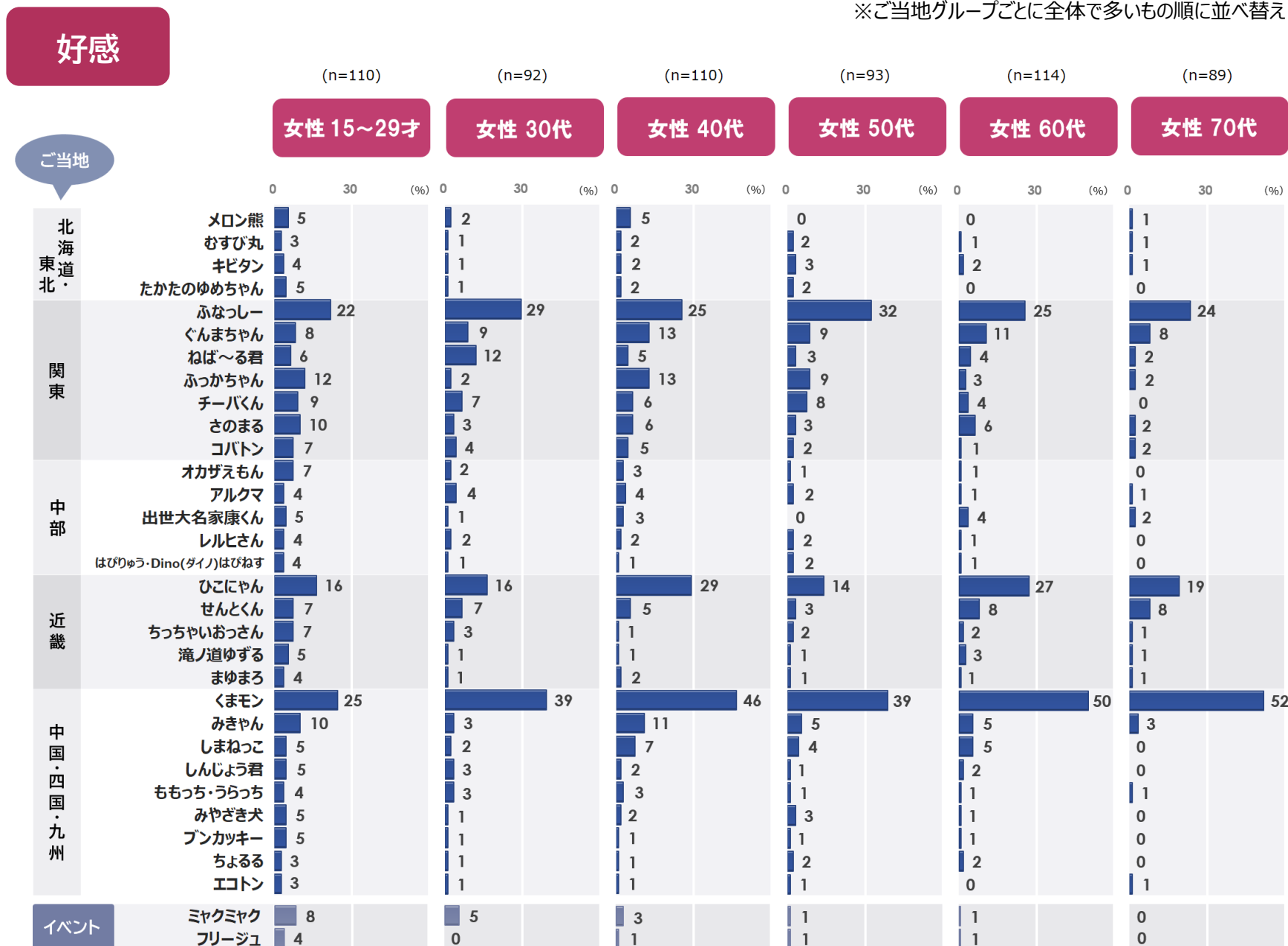
▼「くまモン」は、60代以上で5割以上と高いのが目立ちます。

▼「ふなっしー」は、50代の好感度が32%と最も高いです。

▼「ひこにゃん」(29%)、「ぐんまちゃん」(13%)は40代で、「ねば〜る君」(12%)は30代で最も高くなっています。

▼「ミyakミyak」は、29才以下の若い層でも8%と1割未満でした。

※ご当地グループごとに全体で多いもの順に並べ替え



調査概要 / 提示キャラクター

調査方法

- NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）
- 調査員による個別訪問留置調査

調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人 1,200人

※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付

抽出方法

- 200地点を抽出
- 住宅地図データベースから世帯を抽出し個人を割当（一部エリアサンプリング）

調査期間

- 2022年12月調査（11/28～12/11） ※2014年～2019年は10月調査、2020年は11月調査、2021年～2022年は12月調査

分析サンプル数

エリア

北海道・東北	132
関 東	414
中部・北陸・甲信	222
近 畿	192
中国・四国・九州	240

男女

男 性	592
女 性	608

男女×年代

男 性	15～29才	112
	30～39才	95
	40～49才	111
	50～59才	93
	60～69才	106
	70～79才	75
女 性	15～29才	110
	30～39才	92
	40～49才	110
	50～59才	93
	60～69才	114
	70～79才	89

NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは、50年以上にわたって、

①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼の高いデータを提供しております。

NOSは、定期的実施する乗り合い形式（オムニバス）の調査です。

毎回ランダムに決められた200地点にて、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します（1,200票）。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では、回収が難しい高齢層やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

第9回（2022年）合計32種

問1 ご当地キャラ（30）とイベントマスコット（2）

- 1) メロン熊（北海道夕張市）
 - 2) たかたのゆめちゃん（岩手県陸前高田市）
 - 3) むすび丸（宮城県仙台市）
 - 4) キビタン（福島県）
 - 5) ねば〜る君（茨城県非公認）
 - 6) さのまる（栃木県佐野市）
 - 7) ぐんまちゃん（群馬県）
 - 8) ふっかちゃん（埼玉県深谷市）
 - 9) コバトン（埼玉県）
 - 10) ふなっしー（千葉県船橋市）
 - 11) チーバくん（千葉県）
 - 12) レルヒさん（新潟県）
 - 13) はぴりゅう・Dino（ダイノ）はびねす（福井県）
 - 14) アルクマ（長野県）
 - 15) 出世大名家康くん（静岡県浜松市）
 - 16) オカザえもん（愛知県岡崎市）
 - 17) ひこにゃん（滋賀県彦根市）
 - 18) まゆまる（京都府）
 - 19) 滝ノ道ゆずる（大阪府箕面市）
 - 20) ちっちゃいおっさん（兵庫県尼崎市）
 - 21) せんとくん（奈良県）
 - 22) しまねっこ（島根県）
 - 23) ももっち・うらっち（岡山県）
 - 24) プンカッキー（広島県）
 - 25) ちよるる（山口県）
 - 26) みきちゃん（愛媛県）
 - 27) しんじょう君（高知県須崎市）
 - 28) エコトン（福岡県）
 - 29) くまモン（熊本県）
 - 30) みやざき犬（宮崎県）
-
- 31) フリージュ /2024年パリ オリンピック・パラリンピック マスコット
 - 32) ミャクミャク /EXPO2025(大阪・関西万博)公式キャラクター

第1回 2014年 計106種

●ご当地キャラクター	22
●日本と海外の有名キャラクター	29
●マンガ・アニメキャラクター	28
●ゲーム・企業キャラクター	27

第5回 2018年 計89種

●ご当地キャラクター	24
●日本と海外の有名キャラクター	28
●マンガ・アニメキャラクター	23
●ゲーム・企業キャラクター	14

第2回 2015年 計116種

●ご当地キャラクター	26
●日本と海外の有名キャラクター	31
●マンガ・アニメキャラクター	30
●ゲーム・企業キャラクター	29

第6回 2019年 計83種

●ご当地キャラクター	18
●日本と海外の有名キャラクター	26
●マンガ・アニメキャラクター	21
●ゲーム・企業キャラクター	18

第3回 2016年 計96種

●ご当地キャラクター	20
●日本と海外の有名キャラクター	32
●マンガ・アニメキャラクター	24
●ゲーム・企業キャラクター	20

第7回 2020年 計84種

●ご当地キャラクター	18
●日本と海外の有名キャラクター	26
●マンガ・アニメキャラクター	21
●ゲーム・企業キャラクター	19

第4回 2017年 計90種

●ご当地キャラクター	18
●日本と海外の有名キャラクター	30
●マンガ・アニメキャラクター	21
●ゲーム・企業キャラクター	21

第8回 2021年 計31種

●ご当地キャラクター	17
●企業キャラクター	14

《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp

掲載時には、必ず当社クレジットを明記いただき、
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの記載をお願い致します。